

第2学年 給食の時間 学習指導案

1. 題材 りゅうにゅうをのもう

2. 指導にあたって

学校給食には毎日牛乳がついてくるが、なぜ牛乳が毎日ついているのか理解している児童は少ない。牛乳好きな児童には問題ないが、味やにおいなどが苦手な児童には「なぜ毎日飲まなければいけないの」と、飲む意欲はなかなかわいてこないかもしれない。そこで、カルシウムの『カルちゃん』を登場させ、骨の中にカルシウムのカルちゃんが詰まっていなくて骨がスカスカになり、折れやすくなってしまうことを知らせたい。そして、牛乳にはカルちゃんが他の食べ物よりたくさん入っていることを知らせて、骨を丈夫にするために牛乳を飲むことの大切さに気づかせたい。さらに、牛乳にはたくさんの力(はたらき)があることも知らせ、牛乳を進んで飲むという意欲を持たせることができるよう指導をしたい。

3. 食育の視点

牛乳のはたらきを理解し、牛乳を進んで飲むとする。(心身の健康)

4. 指導計画 (全10分)

第1次 りゅうにゅうをのもう 10分(本時)

5. 本時のねらい

○骨や歯のもとになるカルシウムが多く含まれている牛乳の働きを理解することができる。

(知識及び技能)

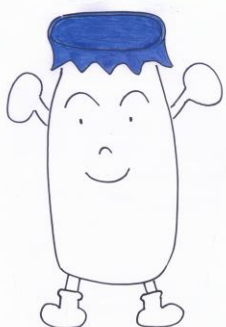
6. 本時の活動

学習内容と活動	指導上の留意点 評価(◆)	資料
給食に毎回なぜ牛乳が出ているのかを考える。	○牛乳はおもに体を作る働きをする。特に骨や歯を作るカルシウムという栄養素がたくさん入っている事を知らせる。	牛乳は血や肉や歯や骨になる。のカード カルちゃんの絵 牛乳1ぼん。ごはん茶碗1杯。ゆで卵1個。トマト1個。みかん1個の絵と含まれているカルちゃんの絵
牛乳のカルシウム量を他の食品と比べて考える。	○牛乳1本、ごはん茶碗1杯、(トマト1個(150g)、ゆで卵1個、みかん1個)に入っているカルちゃん(カルシウム)の量を知らせ、牛乳にはカルちゃんが沢山入っていることに気付くようにする。	
カルシウムのとり方が少ないと骨が弱って、骨折しやすくなる事、牛乳にはカルちゃんがたくさん入っていることを知る。	○カルシウムがいっぱい入っていないと骨の中はスカスカになって転んだりただけで骨折しやすくなる事を『ボーンマン』から知らせる。 ○骨を丈夫にするため1日にとる必要があるカルシウムは600カルちゃん、学校給食は1食でその半分の300カルちゃんがとれる事、牛乳を1本飲むと227カルちゃんをとれる事を知らせる。 ○牛乳を飲む子どもの絵を提示して牛乳を飲む事の必要性に気付くようにする。	ボーンマンの絵 カルちゃんが少ないボーンマンの骨の絵 骨粗しょう症の骨の写真 転んで骨折した子どもの絵 給食の写真。300カルちゃんのカード。牛乳の絵。骨に227カルちゃんが詰まった絵。 牛乳を飲む子どもの絵。 カルちゃんが詰まった骨の絵 健康な人の骨の写真
りゅうにゅうのはたらきを考える。 ①ほねやはになる。 ②ちやにくになる。 ③ねつや力になる。 ④はだをきれいにする。 ⑤目をじょうぶにする。	○牛乳の働きを知らせる。 牛乳アレルギーの児童へカルちゃんが多い他の食べ物を知らせる。 ◆骨や歯のもとになるカルシウムが多く含まれている牛乳の働きを理解している。(知識・技能)	骨や歯になる。血や肉になる。熱や力になる。肌をきれいにする。目を丈夫にする。の絵
まとめと振り返りをする。	○家でも牛乳を飲むように付け加える。	

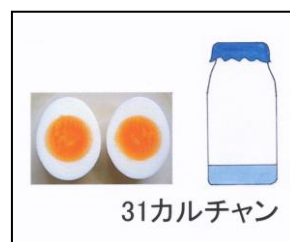
7.板書計画



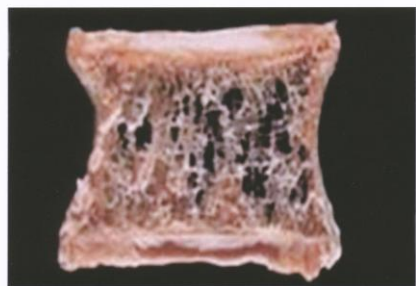
指導資料 (印刷はパワーポイント資料より可能)



「ぎゅうにゅう」は
「ち」や「にく」や
「ほね」や「は」になる



カルちゃんが
たりない！i



カルちゃんが少ない人のほね

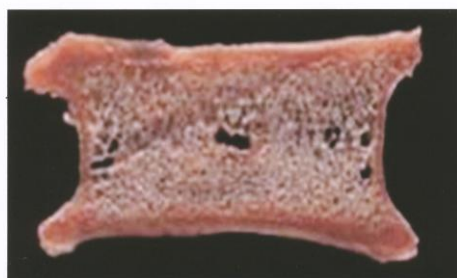
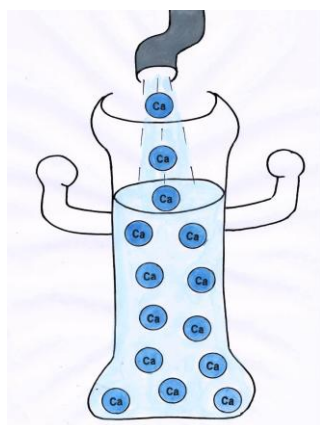
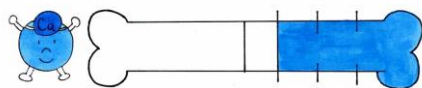
「きゅうしよく」で
300カルちゃん



骨粗鬆症の人の骨の写真(浜松医科大学名誉教授 井上哲郎先生)

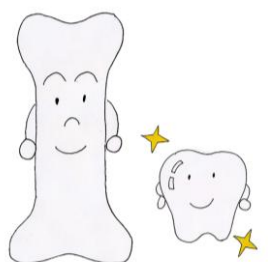
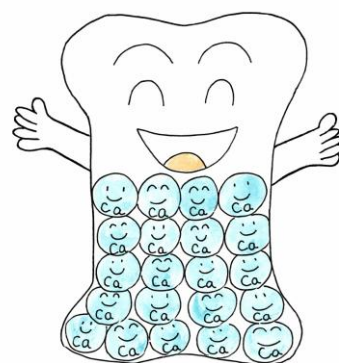


「ぎゅうにゅう」で
227カルちゃん



けんこうな人のほね

健康な人の骨の写真
(浜松医科大学名誉教授 井上哲郎先生)



①「ほね」や「は」になる。



②「ち」や「にく」になる。



③ねつや力になる。



④はだをきれいにする。



⑤目をじょうぶにする。